

523.2
Y0

東アジアと東南アジアのアール・デコの建築に関する研究

(研究課題番号 12650641)

平成12年度～平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書

横浜国立大学附属図書館



11446342

平成15年3月

研究代表者 吉田 鋼市

(横浜国立大学大学院工学研究院教授)

は し が き

本研究は、平成12年度から平成14年度にわたって、科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））を得て実施したものである。研究課題・研究組織・研究経費・研究発表は以下の通りである。

研究課題 東アジアと東南アジアのアール・デコの建築に関する研究
課題番号 12650641

研究組織

研究代表者 吉田鋼市（横浜国立大学大学院工学研究院教授）

研究経費

平成12年度	1,000千円
平成13年度	1,000千円
平成14年度	500千円
計	2,500千円

研究発表

- (1) 吉田鋼市「ウォルフ・シュマケルとバンドンのアール・デコ」
(日本建築学会大会学術講演梗概集、2003年9月、563-564頁)

研究成果について

研究代表者は、平成7年から9年にかけてパリのアール・デコの建築の悉皆的調査を実施し、アール・デコの建築の基本的な造形的特徴を把握した。その後、アジアのアール・デコの建築の調査を志し、平成11年夏に予備的調査として北京・天津・上海の3都市をまわり、予想通りアール・デコの建築がどの都市にも存在することを認識した。そこで、アール・デコの建築の国際的な波及の様相を明らかにせんとして、科学研究費の補助金を申請し、幸いにも平成12年から14年まで、補助金を得て表記の研究を実施した次第である。

藤森照信・汪坦編『全調査 東アジア近代の都市と建築』（1996年、大成建設）と《World Architecture 1900-2000: a critical mosaic》(Springer, Wien & New York)のvol.8 South Asia(2000)、vol.9 East Asia(2000)、vol.10 Southeast Asia and Oceania(1999)を参考にはしたが、これらは特にアール・デコを対象としたものではなく、したがってアール・デコの建物の掲載例はそれほど多くはない。いきおい、現地を赴いてひたすら歩き回るといふ非常に効率の悪い調査方法を取らざるを得なかった。まず平成12年度にはハルビン・瀋陽・長春・大連・青島・香港・マカオ・シンガポール・クアラルンプールの9都市をまわり、翌平成13年度にはバンコク・ホーチミンシティ・ハノイ・プノンペン・ヤンゴン・ソウル・台北の7都市をまわり、最後の平成14年度にはジャカルタとバンドンの2都市をまわった。これに先述の平成11年における3都市の調査を加えると合計21都市を一応調査してまわったことになる。もちろん、これらは東アジアと東南アジアのほんの一部の都市にすぎず、また各都市の調査期間は短く、ほとんど都心のみの調査に終始したが、多くのアール・デコの実例を見ることができた。その調査で拾い出した実例が以下に掲げるリストである。また、そのなかでも典型的・代表的な遺構例の写真を各建物についてそれぞれ数点掲げた。

上述の調査から得られた知見を記すと、まず研究当初の予想通り、アール・デコの国際的な波及性を確認したことである。従来、アール・デコはフランス、そしてフランスからそれを積極的に導入したアメリカとの関係が強いと見なされ、したがって旧植民地・旧租界地であったところでも、フランスとアメリカのそれを中心にアール・デコが普及しているものと考えられてきた。たしかに、そうした面がないでもなく、旧フランス植民地・租界地にはフランス的、つまりは典型的なアール・デコの遺構がしばしば見られる。しかし、

その様式の純粹性といった質的な面は問わず、単純に数的な普及度から見れば、その遺構の数とフランスやアメリカとの関連性はほとんどない。現に、ヨーロッパにおいては1989年にブリュッセルで開催された「ヨーロッパのアール・デコ展」で、ベルギー・ドイツ・オランダ・イタリア・イギリス・デンマーク・スウェーデン・オーストリア・ポーランド・ハンガリー・チェコ各国のアール・デコの事例が展示されていたが、その国際的な波及性がアジアでも確認されたことになる。なにをもってアール・デコの事例と見なすかや、後世にどれだけ壊されているか、つまり遺構の残存度や、あるいはまたこの調査の各都市での悉皆性の薄さ、つまりは行き当たりばったり性をひとまず置くと、この調査によって最も多くのアール・デコの事例が拾われたのはオランダとの関わりが深いバンドンと日本との関わりが深い台北と、それに各国の租界が置かれた上海である。この一事だけでも、アール・デコの国際的な波及度を示すには十分であろう。

そして、アール・デコの遺構の数の多寡は、フランスやアメリカといった特定の国との関わりいかんではなく、アール・デコが国際的に盛行した1920～30年代に、その都市でどれだけ活発な建設活動が行われたかに大きく関わっているように思われる。青島やハルビンにアール・ヌーヴォーの遺構が多く、アール・デコが比較的少ないのは、この二つの都市が1900年前後に最も活発な建設活動を見て、その時期に都市の主たる外観が形成されたためであり、青島とドイツ、ハルビンとロシアとの関わりは副次的なものとなされる。要するに、アール・デコは特定の国や地域に固有のスタイルではなく、地域に関わらぬ時代の産物である。したがって、それはどこにでも見られるのである。

結局は上と同じことを言うことになるが、リストに掲げた建物のうち、判明した設計者の国籍もしくは出自も仏・米・英・蘭・日・中・韓と様々で、アール・デコが特定の国・地域の建築家と結びついているわけではないことを物語っている。アール・デコはその時代の様々な国・地域の建築家に浸透していたということである。あるいはまた、アール・デコの細部意匠は、名もなき小さな普通の建物にこそ多く見られるのであり、アール・デコが広く共有された時代の感性の表現であることがわかる。

つぎに注目されるのが、アール・デコの伝統的建造物群保存地区とも称すべきの地区の存在である。つまり、アール・デコの建物遺構が集中的に残存している地区がいくつか存在する。バンドンの Braga 通りと Asia Afrika 通り、ホーチミンシティの Dong Khoi 通り、クアラルンプールの Tuanku Abdul Rhaman 通り、ヤンゴンの Bogyoke Aun San 通り、長春の新民大街、天津の解放北路、青島の河南路・中山路・曲阜路・肥城路で囲まれた一画、

そして1940年代の建設になるものではあるがバンコクの Ratchadamnoen Nok 通りがそれである。これは単純に、これらの地区が最後のものを除いて1920～30年代に開発もしくは再開発されたこと、そしてたまたま往時の建物がよく残されていることを示すにすぎないとも考えられるが、1940年代に再開発されたバンコクの Ratchadamnoen Nok 通りはアール・デコの造形が戦後にまで継承されていることの一証左であり、貴重である。この大通りは、Chitrasen Abhaiwongse などフランスで建築教育を受けたタイの建築家たちによって設計されたものであるが、1キロ以上もあるまっすぐな通りの両側の建物すべてが同じスタイルをもっている。それは、やや簡略化されたシンプルなアール・デコといってよい。こうしたシンプルなアール・デコの建物は1950年代まで各地に建てられたようで、それが1930年代に建てられたものかあるいは戦後の建物なのかしばしば判断に苦しんだ。いわゆる絵に描いたようなモダニズムの建築というのは、1950年代まではほとんど見られないようであり、大規模な建築の主流は、1950年代まではアール・デコだったとみなされるのである。

バンドンの Braga 通りと Asia Afrika 通りは特筆すべき存在で、東南アジアにおけるアール・デコの遺構の宝庫である。Braga 通りが都心を南北に通る、Asia Afrika 通りがそれに直行して東西に通るもので、この二つの通りはT字型に接しており、連続した一区画とも見なしうる。Braga 通りはもともと繁華な商店街であったようだが、1920年代に集中的に再開発されている。その建築の設計を担当したのが、Wolff Schoemaker(1882-1949)と Richard Scoemaker(1886-1942、1945 説もある)のシュマケル兄弟や、Albert Frederik Aalbers(1897-1961)、R.A. de Waal、Benink、Brinkman、Gmelig Meyling、それに3人からなる建築家チーム Bel-Kok & Piso といった主としてオランダで教育を受けた建築家たちであった。その代表的な存在と目されるウォルフ・シュマケルはオランダの Breda の王立軍学校(KMA)で土木を学んだ建築家であり、デルフト工科大学でアカデミックに建築を学んで当時のオランダ領東インドで活躍した Henri Maclaine Pont(1884-1971)や Herman Thomas Karsten(1885-1945)がアール・デコ的な作品を残していないことを考えるとやはり興味深い。当時のデルフト工科大学はボザール流の古典主義的な建築教育で知られており、その教育を受けた二人は、古典主義的な造形と地域の伝統的な風土や造形との融合に腐心している。ついでながら、この風土性・地域性の考慮というのは古典主義的な建築教育のなかにあったものであり、いわゆるモダニズムの建築はそれを無視したということになる。それに対して、シュマケルは軍人としての実践的な教育を受けており、そうした建

築が本来考慮すべきとされた問題に悩むことなく臨機応変に設計活動を行ったように見える。Aalbersも正統的に建築を学んだ建築家のように見えるが、彼のアール・デコもしくはモダニズムの採用は、むしろ世代の相違の産物であろう。つまり、Aalbersが教育を受けた1920年代には、正統的な建築教育もすでに近代運動の影響を受けていたということである。いずれにしても、このBraga通りとAsia Afrika通りには多くのアール・デコの建物が見られる。その代表的存在がシュマケル設計のHotel Grand Preanger(1928年)とAalbers設計のHotel Savoy Homan(1938年)である。この二つの通りのほかにも、バンドンにはシュマケル設計のVilla Isola(1933年)をはじめ、アール・デコの大作が多い。バンドンはアジアにおけるアール・デコの宝庫といえるであろう。

ホーチミンシティのDong Khoi通りの建設についてはフランスの建築家たちの関与が大きいようであるが、主として1930年代に建てられたと覚しき建物が通りの両側に点在している。その代表例は13-27番地のMaxim'sビルと211-213番地のChicken Townビルである。クアラルンプールのTuanku Abdul Rahman通りは、特筆すべき建物とてない小規模な建物が並ぶ通りであるが、ほとんどの建物が同じスタイルをもっている。ヤンゴンのBogyoke Aun San通りは、鉄道線路沿いの長くはない通りであるが、映画館が5軒片側に並んでおり、それら5軒は典型的なアール・デコのファサードをもっている。

長春の新民大街は、満州国総務庁営繕課の設計によって1930年代につくられた首都のメインストリートであるが、その左右の建物は独特のスタイルで統一されている。それは鉄筋コンクリートの造の躯体に勾配屋根を載せた日本でいうところの帝冠様式に似たスタイルであるが、屋根は中国風に反っており、細部にも中国の伝統的な造形が見られ、和洋中の混交したものである。これをしもアール・デコとすることについては異論があるかもしれないが、研究代表者はアール・デコを、鉄筋コンクリートの表面に主として幾何学的ななんらかの付加的装飾を施した建物と広くとらえようとしており、典型的なアール・デコの細部造形がかりになくとも、庇や柱型や開口部の額縁の存在や、あるいはまた壁面の分節だけでもアール・デコとみなしうると考えてきた。上記のバンコクのRatchadamnoen Nok通りの建物をアール・デコに含めたのも同じ理由による。また、1930年代の復古的古典主義のスタイル、つまりファシズムやナチズムやスターリニズムで好んで用いられたスタイルをも広くアール・デコととらえんとしており、そうした見方に立てば日本の帝冠様式も、この旧満州国の和洋中混交のスタイルもアール・デコの一例と見なしうる。先述のバンドンのアール・デコにも、インドネシアの伝統的な勾配屋根を架けたものがしばし

ば見られ、あるいはまた台北の民生西路や迪化街に典型的に見られる中国風看板建築の存在も考えあわせれば、これらはアール・デコの世界的な伝播における地方的な変容の一形態と見なしうるのである。いずれにしても、長春の新民大街はアール・デコの地方的な変容の独特の様相を示すものとして貴重である。この通りの両側は、現在は白求恩医科大学のキャンパスおよび付属病院となっており、かつての満州国政府関係の建物がほぼすべてこの医科大学の施設となっている。

天津の解放北路はもとのフランスの租界地であったところに集中的にアール・デコの遺構がある。その建築家にはフランス人ばかりでなく、中国人も見られるようであるが、典型的なアール・デコの大作が多い。その代表例が天津証券交易中心（旧フランス・クラブ）、天津百貨公司（旧新華信託銀行）、天津第二電子儀器大樓（旧裕泰飯店）である。青島の河南路・中山路・曲阜路・肥城路で囲まれた一画は1934年に開発されたもので、この一画のほとんどすべてがアール・デコである。その設計者は劉銓法、蘇夏軒、羅邦傑、除垚、許守忠などすべて中国の建築家のようにである。代表的作品が中国銀行青島分行（旧山左銀行）である。

さて、これらのアール・デコの建築をつくりだした建築家たちであるが、バンドンのオランダ人建築家についてはシュマケルを中心に文献的な調査を行った。それを2003年度の日本建築学会大会で発表する予定であり、その梗概を末尾に掲げた。シュマケルについてはオランダの美術史家 Jan van Dullemen 氏がモノグラフを準備中だということを知り、直接にデータの一部のご教示を得た。しかし、その他の建築家たちについては、その研究は容易ではなく、ほとんど手付かずの状態である。しかし、近年、こうした植民地時代の建築遺産を” Colonial heritage” といった負の遺産としてではなく、” Mutual heritage” と呼んで積極的な研究対象としようとする動きがあり、大部な研究書もすでにいくつか出ているようである。そうした動きも、かつての帝国主義諸国の都合のいい解釈とみなされなくもないが、少なくとも事実が明らかとなるのは非常にありがたく、今後はそうした研究を参考にアール・デコを担った建築家たちについて調査を進めたいと考えている。

アール・デコの現存建物リスト

建物名に*印を付したものは写真を掲載

北京				
建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
新僑飯店	東城区東交民巷2号			旧館の一部(レストラン等)がアール・デコ

天津				
建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
*天津第二電子儀器大樓(旧裕泰飯店)	和平区解放北路3号	設計 儀品地産公司 Crédit Foncier d'Extrême Orient		フランス的
*天津百貨公司(旧新華信託銀行)	和平区解放北路8-10号	設計 沈理源		アメリカン・アール・デコ風
集合住宅(旧光明大樓、旧美業銀行)	和平区解放北路18号			フランス的
*天津證券交易中心(前天津市青年宮、旧フランス・クラブ)	和平区解放北路39号	設計 Son Sagne ?		外観・ディテールとも典型的なアール・デコ

上海

建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
和平飯店北楼(旧Sassoon House)	黄浦区南京東路20号	設計 Palmer & Turner 施工 新仁記營造廠	1929	アメリカン・アール・デコ風
上海市第一百貨店	黄浦区南京東路830号(南京東路西端)	設計 基泰工程司 施工 馥記營造廠	1936	中国風の装飾を加味
國際飯店(旧Park Hotel)	黄浦区南京西路170号	設計 L.Hudec 施工 馥記營造廠	1933	アメリカン・アール・デコ風
大光明電影院(Grand Theater)	黄浦区南京西路220号	設計 Ladislav Hudec	1934	大規模
島工行	黄浦区虎丘路20号			アール・デコ+ロマネスク
学大楼(上海市教体育用品進出 公司)	黄浦区虎丘路128号			アール・デコ+ゴシック
海國際貿易會堂(旧光陵大楼 Sassoon Building)	黄浦区虎丘路146号	設計 C.H.Gonda 施工 張裕泰建築事務所	1927	アメリカン・アール・デコ風
福州大楼(旧Hamilton House)	黄浦区福州路170号	設計 Palmer & Turner 施工 新仁記營造廠	1930頃	アメリカン・アール・デコ風
城飯店(旧Metropole Hotel)	黄浦区江西中路180号	設計 Palmer & Turner 施工 新仁記營造廠	1930頃	アメリカン・アール・デコ風
海市工業經濟連合會	黄浦区江西中路181号(福州 大楼の向かい)			アメリカン・アール・デコ風 ただしシンプル
国光大銀行	天津路と江西中路の交差点 の北西隅			隅部に意匠集中
海市總工會(旧交通銀行)	黄浦区中山東一路14号		1940	シンプルなアール・デコ
国銀行上海分行(旧中国銀行總 行)	黄浦区中山東一路23号	設計 陵謙受とPalmer & Turner 施工 陶桂記營造廠	1937	中国風屋根
海大廈(旧Broadway Mansions)	虹口区北蘇州路20号	設計 業広地産有限公司建築 部 Shanghai Land Investment Co.	1934	アメリカン・アール・デコ
浜大楼 Enbankment House	虹口区北蘇州路410号	設計 Palmer & Turner 施工 新申記營造廠	1930	シンプル
亜大酒店	虹口区天潼路422号(四川北 路と天潼路の交差点北西隅)			アメリカン・アール・デコ風
パート	虹口区四川北路1288号			細部はややクラシック
豊製衣公司	虹口区四川北路			
園飯店(旧フランス總會)	盧湾区茂名南路58号	設計 A.Leonard & P.Veysseyre	1926	外観クラシック.内部アール・デコ
江飯店西楼	盧湾区茂名南路59号			中楼と同時期のもの 煉瓦張り
江飯店中楼	盧湾区茂名南路59号	設計 Palmer & Turner	1931	アメリカン・アール・デコ風 煉瓦張り
江飯店北楼 Cathay Apt.	盧湾区茂名南路59号	設計 Palmer & Turner	1928	アメリカン・アール・デコ風

建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
国泰電影院 Cathay theater	盧湾区淮海中路870号			外観は上海を代表する映画館建築
アパート	徐匯区高安路48号			フランス的もしくはロシア的華麗な漆喰細工
アパート	徐匯区建国西路641号			フランス風
中央科学院上海生理研究所(旧上海自然科学研究所)	徐匯区岳陽路320号	設計 内田祥三	1930	東大ゴシック風
アパート	徐匯区武康路115号			フランス風
独立住宅	徐匯区武康路370号(上海職業底地産総会社の隣)			モダニズム+アール・デコ
淮海公寓(旧Gascoigne Apart.)	徐匯区淮海中路1202号	設計 A.Leonard & P.Veysseyre	1930年代後半	フランス風
アパート	徐匯区淮海中路1251号			外壁に漆喰細工
式康薬房	徐匯区淮海中路1842-1856号			フランス風、ストリームライン・デコ
上海金鷹名品	淮海中路(地下鉄陝西南路駅傍)			アール・デコ+ゴシック
上海交通(集団)公司	徐匯区新楽路82号			中国風+アール・デコ
アパート(旧Dauphine Apartment)	静安区常熟路195-207号	設計 A.Leonard & P.Veysseyre	1935頃	フランス風 ジャン・ブーシェ風花模様
静安賓館	静安区桑山路370			戦後か?
小灘のトイレ				小規模だが佳品

大連				
物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
連飯店(旧遼東ホテル)	中山区上海路6号			
連郵電局営業楼(旧大連中央郵局)	中山区長江路134号	設計 関東庁土木課(臼井健三)	1929	クラシック+アール・デコ、細部に中国的意匠
通銀行大連分行(旧東洋拓殖株式会社大連支店)	中山区中山広場街6号	設計 宗像主一建築事務所	1936	ややクラシックで平板
パート	中山区中山路178-184号			頂部・玄関辺りに典型的なアール・デコの意匠
国工商銀行青泥支店	中山路、青泥港橋バス停そば			典型的なアール・デコ
連市人民政府(旧関東州庁)	西岗区斯大林広場	設計 関東州庁土木課	1937	クラシック+アール・デコ、細部に中国風意匠
民広場、東側の建物	西岗区斯大林広場			中央に塔を戴く巨大な建物 ややクラシック
法省大連市人民検察院 連市司法局(旧高等法院)	西岗区斯大林広場			東大ゴシック風
パート	武漢街95			2階建ての小規模ながら佳品、入口にステンドグラス
パート	武漢街と解放路の交差点、南東隅			シンプルなアール・デコ
国工商銀行 昆明路儲蓄所	昆明街と貨昌街の角の北東			シンプルなアール・デコ

瀋陽				
物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
思大廈	和平区中山路			スクラッチタイル張り
葯大廈	和平区中山路2号			頂部にレリーフ
寧賓館(旧奉天大和ホテル)	和平区中山路97号	設計 小野木横井共同事務所	1929	ややクラシック
国工商銀行中山広場支行(旧横正金銀行奉天支店)	和平区中山路104号	設計 宗像主一建築事務所	1925	ややクラシック
陽市公安局(旧奉天警察署)	和平区中山路106号	設計 関東庁土木課	1929	ややクラシック(上とよく似ている)

春

物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
求恩医科大学第一医学院(旧満国軍事部)	新民大街1号	設計 満州国営繕需品局営繕処	1936	帝冠様式、頂部にレリーフ
求恩医科大学基礎医学部(旧満国国務院)	新民大街2号	設計 満州国総務庁需用処営繕科(石井達郎)	1936	中国帝冠様式風、細部はややクラシック
求恩医科大学第三医学院(旧満国經濟部)	新民大街5号	設計 満州国営繕需品局営繕処	1939	中国帝冠様式風
求恩医科大学校部(旧満州国司法部)	新民大街6号	設計 満州国総務庁需用処営繕科(相賀兼介)	1936	帝冠様式
求恩医科大学予防医学部(旧満国交通部)	新民大街7号	設計 満州国営繕需品局営繕処	1937	中国帝冠様式風
林省国宝館	新民大街12号	設計 満州国営繕需品局営繕処?		中国帝冠様式風
春市人民政府(旧三菱康德会)	其大林大街57号	設計 三菱地所	1936	旧丸ビル風に中国風塔屋
春市電話局(旧満州電信電話株式会社)	其大林大街65号			中国帝冠様式風
春市公安局(旧満州国第2庁舎)	其大林大街67号	設計 満州国国務院国都建設局(相賀兼介)	1933	中国帝冠様式風
林日報社(旧満州重工業)	其大林大街		1935頃	中国風なくオーソドックス
林省人民政府執行楼(旧大興ビル)	其大林大街		1937	大規模、中国風なくオーソドックス
林省人民政府(旧関東局庁舎)	其大林大街	設計 関東局土木課(臼井健三)	1935	中国風なし、スクラッチタイル張り
皇宮陳列館(旧満州国皇宮西)	光復北路北	設計 満州国総務庁需用処営繕科(相賀兼介)	1936	ややクラシック
皇宮陳列館 勤民楼	光復北路北			ややクラシック
林省博物館(旧満州国皇宮東)	光復北路	設計 満州国総務庁需用処営繕科?	1938	中国帝冠様式風
国人民解放軍81021部隊門診部	人民大街145			中国帝冠様式風
求恩医大教学医院(旧満州国合法衛)	自由大路2号	設計 満州国営繕需品局営繕処	1938	スクラッチタイル張り 中国帝冠様式風
林省東北華連房地產開発公司(満州国外交部)	建設街普慶湖同1号	Brossard Mopin & Cie	1936頃	フランス風、六角形の窓
林省賓館	人民広場			地味な中国帝冠様式風
春鉄路分局(旧満鉄長春共同事務所)	駅前広場	設計 満鉄地方部工事課(太田宗太郎)	1936	大規模、正面中央に意匠集中

爾濱

物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
電局	南岗区東大直街			ストリームライン・デコ
国工商銀行大宣支行	南岗区東大直街			クラシック+アール・デコ
國際飯店(旧新ハルビン旅館)	南岗区東大直街124号	設計 スピリドフ 施工 近藤林業公司	1937	アメリカン・アール・デコ風 右端部の棟は典型的なアール・デコ
アイスビル	南岗区東大直街287号			ややクラシック
爾濱工業大学本館	南岗区西大直街			1930年代ソ連風、戦後か?
爾濱鉄路第二工程公司	南岗区西大直街26			要所に典型的なアール・デコの造形
美金店	道里区兆麟街(ハルビン話劇院の北隣)			ロマネスク+アール・デコ
パート	西十道街51-53号			細部に典型的なアール・デコの意匠
龍江省日報社	地陵街2号	設計 E. Рапопорт 施工 Волта	1938	中央に塔を戴く左右対称の角地の建物

島

物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
国工商銀行青島分行(旧中国銀行青島分行)	市南区中山路62号	設計 陸謙受・吳景奇 施工 新慎記・徐垚	1934	シンプルだがバットレス風装飾あり
居ビル	中山路と広西路の交差点			漆喰細工のレリーフ
国銀行青島分行(旧山左銀行)	市南区中山路64-66号	設計 劉銓法	1934	河南路・中山路・曲阜路・肥城路に囲まれた一画が1934年に開発された。一群のアール・デコ
国銀行青島分行(旧上海商業貯銀行)	市南区中山路68号	設計 蘇夏軒 施工 公和興營造廠	1934	一群のアール・デコ
国糧油食品進出口公司山東省品分公司(旧大陸銀行青島分)	市南区中山路70号	設計 羅那傑 施工 新慎記營造廠	1934	一群のアール・デコ
国人民銀行青島分行(旧中国業銀行青島分行)	市南区河南路13号	設計 許守忠 施工 申泰營造廠	1934	一群のアール・デコ
東省服装進出口公司(旧青島行同業公会)	市南区河南路15号	設計 徐垚 施工 貨富恒記	1934	一群のアール・デコ
国光大銀行(旧青島市礼堂)	市南区芝山路1号	設計 鄭德鵬(基泰工程司) 施工 美化營造廠	1935	ややクラシックなアール・デコ
島貨商旅行社	市南区広西路47号			中国的造形を加えたアール・デコ
島市博物館	市南区魚山路37号	設計 王翰	1941	クラシックと中国風とアール・デコの混交した独得の建物

北 建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
台湾土地銀行(旧日本勸業銀行台北支店)	衡陽路26号	設計 勸業銀行建築係	1933	基本はクラシックだが、細部にアール・デコの意匠
台湾土地銀行・増築部	上記の建物の隣			典型的なアール・デコ
七銀行ビル	衡陽路68号			水平線の強調
作金庫(旧台北第十信用合作)	衡陽路87号		1935	ややクラシック
台湾銀行	宝慶路	設計 西村好時	1938	ほとんどクラシック
台湾銀行新館部	上記の台湾銀行の隣			ややクラシック
法大(旧台湾総督府高等法)	重慶南路一段124号	設計 台湾総督府営繕課	1934	基本はロマネスク風だが、細部にアール・デコの意匠
北市立第一女中(旧台北第一高女学校)	重慶南路一段165号	設計 台北州土木課	1933	シンプルなアール・デコ
二八記念館(旧台北放送局)	中山南路	設計 栗山俊一	1931	スパニッシュ風だが、細部にアール・デコの意匠
范大学本部(旧台北高等学校本)	和平東路一段162号	設計 総督府営繕課(米重三郎)	1928	スクラッチタイル張り
范大学礼堂(旧台北高等学校講)	和平東路一段162号	設計 総督府営繕課(井手薫)	1929	スクラッチタイル張り
北郵政局(旧台北郵便局)	忠孝西路一段114号	設計 台湾総督府営繕課(栗山俊一)	1930	壁は煉瓦造にタイル張り、ややクラシック
台北区郵政管理局包襄營業庁	台北郵便局の隣			中央部分は典型的なアール・デコ、青海波模様、あるいは戦後か？
北中山堂(旧台北公会堂)	延平南路98号	設計 台湾総督府営繕課(井手薫)	1936	スクラッチタイル張りにテラコッタアール・デコのディテール
范大学(旧台北帝国大学)	羅新福路一段	設計 台湾総督府営繕課	1929	基本はロマネスク風だが、細部にアール・デコの意匠
国文化中心 American Cultural Center	南海路古亭区54	設計 台湾総督府営繕課長 井手薫	1931	スクラッチタイル張り
和家飾」ビル	民生西路309			タイル張りのシンプルなアール・デコ
ッピーショップ」ビル	民生西路311?			「大和家飾」ビルの隣 一部ややクラシック
花閣」ビル	民生西路321			ややクラシック
村食品行」大福商行」ビル	民生西路385			垂直性の強調で、少しゴシック的雰囲気
益食品公司」ビル	迪化街144			上記と同様の建物
国電子」ビル	民生西路と重慶北路二段の交差点、北西角			細部意匠はクラシックだが骨格はアール・デコ

建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
アパート	民生西路と重慶北路二段の北西の角の重慶北路の西側南寄り			上記と同様の建物
元行」ビル	迪化街一段171			バロック的アール・デコ
済有限公司」ビル	迪化街96			スパンドレルにレリーフ
村企業有限公司」ビル	民楽街99号			ややクラシック
家	開封街一段32号			スクラッチタイル張りのオーソドックスなアール・デコ
海学園・植物園	南海路41号			国立台湾科学教育館など園内に少しアール・デコの要素をもつ建物がいくつかある

巷名	所在地	設計・施工	建設年	備考
中華僑有会	干諾道中25			アール・デコの意匠横溢
華銀行(旧中国銀行)	Des Voeux Rd.	設計 Palmer & Turner	1950	戦後の作品だが、典型的なアメリカン・アール・デコ
	Nathan Road			頂部にアール・デコの装飾
	銅鑼灣付近			
	Times Square 付近			鋭角に交わる道路の角地のビル
のビル	Mody Road とCormwall avenue の交差点			ストリームライン・デコ
Mary's Church	銅鑼灣道と嘉寧徑の交差点	設計 I. N. Chau	1937	中国の伝統意匠にアール・デコが加味された独得の教会堂建築

カオ

ビル	住所	設計・施工	年代	備考
宅 SKYLINE	Estrada de Dr. João Paulino (鮑公馬路)(主教山眺望台の向かいの住宅)			典型的なアール・デコの住宅
na Church	主教山		1934-1935	ロマネスク風だが細部にアール・デコの意匠をもつ
na Church 付属屋	主教山			
地のビル	主教山			典型的な1930年代風

ル

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
市議会(旧京城府民館)	中区太平路1-60	設計 京城府	1935	塔屋頂部に装飾
医科大学(旧京城帝大医学)	鍾路区連建洞28	設計 総督府官房会計課	1928	スクラッチタイル張り
文化芸術振興院(旧京城帝大)	鍾路区東崇洞1-31	設計 朴吉龍	1931	スクラッチタイル張りで、ソウル医科大学とよく似る
日報ビル	世宗路?			ファサード保存
빌딩ビル	10, 중학친일			シンプルなストリームライン・デコだが戦後か?
と昌慶宮を結ぶ橋				RC造で親柱の装飾がアール・デコ

ゴン

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
館	Bogyoke Aung San St.南側			Bogyoke Aung San St.南側に映画館5軒が連なる。いずれも典型的なアール・デコ
館	Bogyoke Aung San St.南側			
館	Bogyoke Aung San St.南側			
館	Bogyoke Aung San St.南側			
館	Bogyoke Aung San St.南側			
館 THAMADA	スーレーパゴダ通り			戦後か?

コク

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
ロンコン大学	254 Phyathai Road Patumwan			一部にアール・デコの建物がある
チャダムヌーン・ノーク通り				ラーチャダムヌーン・ノーク通りの左右の建物は1940年代のものであるが、すべてアール・デコ

ガポール Singapore

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
ライオンの土産物屋	B1 Fullerton Road			特筆すべき典型的なアール・デコ
銀行	Battery Road			アメリカン・アール・デコ風
Insurance Building	Raffles Quay			シンプルなアール・デコ風
	202 South Bridge Road			頂部の両端にアール・デコの意匠
空家)	210 South Bridge Road			ペンシルビルだが頂部に典型的なアール・デコの意匠
	47-49-51, Tanjong Pagar Road (cook st. との交差点)		1950年代?	コーナー部にアール・デコの表現
NELS	120, Tanjong Pagar Road			シンプルなアール・デコ
ating House	Telok Ayer street と Boontat street の角			シンプルなアール・デコ
ord Pier			1933	アール・デコの意匠横溢

アラルンプール Kuala Lumpur

建物名	所在地	設計・施工	建設年	備考
National Art Gallery (元 Majestic Hotel)	Jln. Damansara		1932	現在は空家
AHKAMAH SYARIAH WILAYAH PERSEKUTUAN	Jln. Damansara, 駅の南隣			塔屋は典型的なアール・デコ
二階建て商店	Jln. Tuanku Abdul Rahman			以下、この通りにはアール・デコの建物が多数ある
店	Jln. Tuanku Abdul Rahman			改造多いが、頂部はアール・デコ
三階建て商店	Jln. Tuanku Abdul Rahman			頂部はアール・デコの表現
Artz ビル	Jln. Tuanku Abdul Rahman			改造多いが、骨格はアール・デコ
Hotel ビル	Jln. Tuanku Abdul Rahman			よく当初の姿をとどめる
Hotel ビルの隣のビル	Jln. Tuanku Abdul Rahman			Tivoli ビルによく似るがシンプル
MA SURAJ ビル	Jln. Tuanku Abdul Rahman			頂部に典型的なアール・デコ
二階の3階建てビル	Jln. Tuanku Abdul Rahman			シンプル
ARIKAT MING ビル	Jln. Tuanku Abdul Rahman			シンプル
美術館 ODEON	Jln. Tuanku Abdul Rahman			典型的なアール・デコ
George Town Chemist	China Town の中			中央頂部にアール・デコの意匠
Hotel Lok Ann	China Town の中			シンプル、「1971」の文字があるが竣工年とは思えない
Hotel TIC の西南隣の建物	Jln. Ampang			典型的な1930年代風
時計塔	Medan Pasar			典型的なアール・デコ
Bank Finance Berhad	時計塔の背後			頂部にアール・デコの表現
ABC BANK (華僑銀行)	Leboh Pasar Besar と Medan Pasar の交差点の東南隅			戦後かもしれないが、アール・デコの
Central Market	Jln. Hang Kasturi			入口部分は典型的なアール・デコ
Foong Restaurant	Jln. Cheng Lock			シンプルなアール・デコ
Hotel Building	Jln. Melaka			ややクラシックだが、注目すべきアール・デコ
Lee Rubber Building	Jln. Tun H・S・Lee と Jln. Hang Lekir の交差点西南隅			随所にアール・デコの意匠
Bank	Jln. Tun H・S・Lee と KE Jln. Pudu の北東隅			ストリームライン・デコあるいは戦後か？

ンペン

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
ム通り37-39番地のビル	ノロドム通り37-39番地			シンプルなアール・デコ 中央に縦のライン
tra	ノロドム通り56-58番地			典型的なアール・デコの独立住宅
Hollywood Hotel	フランス通り			USJ 風アール・デコ
トラルマーケット		設計 Jean Desbois & Louis Chauchon	1935- 1937	東南アジアを代表するアール・デコ
raco Ltd. ビル	セントラルマーケット近く			角地のビル、三角を連ねた意匠
teot ビル	セントラルマーケット近く			上と同じでペアのビル
ンペン駅 Royal Railways of bodia				左右対称、随所に菱形モチーフ
Ripole				ストリームライン・デコ

イ

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
rometeorological Service of am	Quang Trung 通り51番地			典型的なアール・デコ
nfon Bank	Quang Trung 通り55番地			アール・デコの傑作、ポーチにレ リーフ
national Post Office	Dinh Tien Hoang 通り75番地			シンプルなアール・デコ
oi Gold Silver & Gemstones pany	Dinh Tien Hoang 通り			大規模建築、花模様のレリーフ
夕大使館?	Lé Hong Phong 通り16番地			壁面に広くレリーフを施す
Jhuung Moi 大劇場	Trang Tien Trang 通り (KS Dân Chin Hotel の西隣)			やや大味だが、典型的なアール・デ コ

一チミンシティ

名称	所在地	設計・施工	建設年	備考
TEL MAJESTIC	Dong Khoi 通り1番地			ややクラシック
ific Airlines ビル	Dong Khoi 通り2番地			ストリームライン・デコ
AND HOTEL	Dong Khoi 通り8番地		1930	基本はクラシックだが、一部にアール・デコの造形
AXIM'S ビル	Dong Khoi 通り13-27番地			典型的なアール・デコ、内部もアール・デコの意匠横溢
兼アパート	Dong Khoi 通り41-49番地			やや平板
トランTUDO Liberty	Dong Khoi 通り80番地			ストリームライン・デコ
dial Hotel	Dong Khoi 通り107-109番地			レリーフに特徴
DARD カフェレストラン	Dong Khoi 通り131-133番地			シンプルだが細部に典型的なアール・デコの造形
兼アパート	Dong Khoi 通り135-145番地			やや固い造形
ート	Dong Khoi 通り158番地			propriété de la Société urbaine foncière indocienoise の表記あり。
館	Dong Khoi 通り183番地			中央に典型的なアール・デコの造形
ken Town ビル	Dong Khoi 通り211-213番地			にぎやかなアール・デコ
TAMIN-GINSENG ビル	グエンフエ通り東側			シンプルなアール・デコ
AL CITY HOTEL	グエンフエ通り西側			レリーフに特徴
X HOTEL	レロイ通りとグエンフエ通りの 交差点北西隅			部分的に濃厚なアール・デコ
X HOTEL西隣の車庫	NGUYEN HUE通り			典型的なアール・デコ
International Trading Center	レロイ通り			戦後か？
イスビル	レロイ通りとグエンフエ通りの 交差点北東隅			ストリームライン・デコ
ing KARAOKE ビル	レロイ通りとグエンフエ通りの 交差点北東隅ビルの北隣			ジグザグ平面のファサード
GON TOURIST ビル	レロイ通りとグエンフエ通りの 交差点南東隅			ややシンプルなアール・デコ
百貨店	レロイ通りとグエンフエ通りの 交差点南西隅			シンプルなストリームライン・デコ
イスビル	Hamngchi 通り45番地			インターナショナル・スタイルに一部 アール・デコ

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
ート	ハムギ通りとパストゥール通りの角 北西隅			戦後か?
画館 Kich Saigon	Pasteur 通り57番地		1959?	戦後のようだが、典型的なアール・デコ
ート	Nguyendu通り81番地 (Ngutendu 通りと Pasteur 通りの交差点の西南隅)			円窓
チミン作戦博物館 Tang, Chien Dich Ho Chi Minh				シンプルなアール・デコ
Duán 通りのオフィス(or 学校)	Le Duán 通り(ホーチミン作戦博物館の向かい)			戦後か?
ンタイン市場 CHÓ BÉN THÀNH				塔屋はややクラシックだが、典型的なアール・デコ

ジャカルタ

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
局	独立記念塔(モナス)東側			モニュメンタルなアール・デコ
便局 POS INDONESIA	コタ地区 ファタヒラ広場北側			典型的なアール・デコ
局の西隣のビル	ファタヒラ広場北 郵便局の西隣			寄棟の屋根だが、壁面はアール・デコ
イスビル	Jl Pintu Besar Utara 西側			屋根は寄棟だが、アール・デコ。ややクラシックな面もある。八角形窓
駅				シンプルだが骨格はアール・デコ
ドネシア銀行	コタ駅西側			ジャカルタを代表するアール・デコ 典型的な1930年代風
駅南側のビル	コタ駅南側			典型的なアール・デコ

バンドン Bandung

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
Bandung Merdeka (Museum of the Asia conference)	Asia Afrika通り	設計 Wolff Schoemaker & A. F. Aalbers	1924 1938 増築	最大規模のアール・デコの大作
Bandung Merdekaの向かいのビル	Asia Afrika通り南側 (Gedung Merdekaの向かい)			寄棟屋根だが、随所にアール・デコの造形
"Jabar" (旧Denisビル)	Asia Afrika通り	設計 A. F. Aalbers	1935	Hotel Savoy Homan と似る。
"Panasda"	Asia Afrika通り			平家の店舗
"Pal" ビル	Asia Afrika通り			ややクラシック
"PCC" ビル	Asia Afrika通り Gedung Merdeka の隣			典型的なアール・デコ、インドネシア伝統の造形を加味
PLN (PERSERO)"	Asia Afrika通り			ややクラシック、円窓あり
"PUSKERKEBUNAN XII"	Asia Afrika通り			シンプルなアール・デコ
"SRAYA"	Asia Afrika通り			勾配屋根だがにぎやかなアール・デコ
"INDONESIA" (KANTOR POS BANDUNG)	Asia Afrika通り49番地			寄棟瓦葺きだが、アール・デコ。ややクラシックな造形もある。
Bank Mandiri 24 Jam	Asia Afrika通り			ややゴシック風
"SUDON N. V."	Asia Afrika通り			にぎやかなアール・デコ
賃貸住宅	Asia Afrika通りとOtto Iskandardinata通りの交差点 東南隅			シンプルなアール・デコ
Hotel Preanger	Asia Afrika通り 81番地	設計 Wolff Schoemaker	1928	アール・デコの大作、ライト調
Hotel PACIFIC	Tamblong通り東側 Hotel Preangerの向かい			切妻破風を見せるが、細部造形はアール・デコ
Hotel Savoy Homan Hotel	Asia Afrika 通り112番地	設計 A. F. Aalbers	1939	アール・デコの大作
"Sudra Palace"	Braga通り西側			シンプルなアール・デコ
賃貸アパート	Braga通り西側			シンプルなアール・デコ
	Braga通り西側 103番地			細部にアール・デコの造形
賃貸住宅	Braga通り東側 72番地			細部に典型的なアール・デコ
"Sudra Shoes" ビル	Braga通り46-62番地			細部に典型的なアール・デコの造形
"Sudra BNI" ビル	Braga通り			やや平板だが細部がアール・デコ

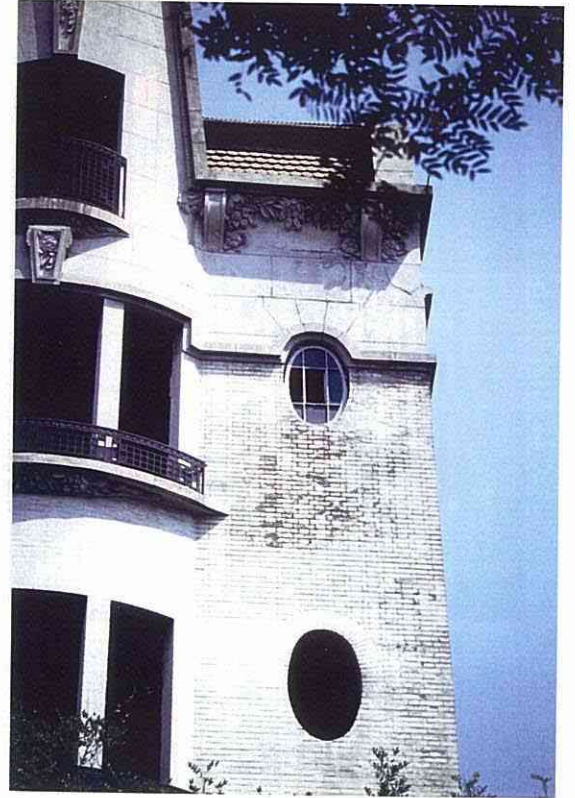
名称	所在地	設計・施工	建設年	備考
兼住宅	Braga通り50番地			ややクラシック
"TA NADA" ビル	Braga通り			柱頭部分に典型的なアール・デコ
"TA NADA" の一戸おいて隣の	Braga通り			ややシンプル
兼住宅	Braga通り			柱頭部分にアール・デコの造形
兼住宅	Braga通り71-77番地			ファサードの長いビル、細部にアール・デコの造形
"NCURRENT" Jewery ビル	Braga通り			隅部や柱頭にアール・デコの造形
"JI IMAGE PLAZA" ビル	Braga通り			細部にアール・デコの造形
"amberland" ビル	Braga通り			頂部右に独得の造形
兼住宅	Braga通り Kejaksaan 通りとの交差点			やや構成主義風
兼住宅	Braga通り			非常に長い2階建連結棟
PET 店	Braga通り			隅部にアール・デコの造形
Indonesian National News Agency "Antara"	Braga通り			ストリームライン・デコ
"DMA" コーヒー店	Braga通り		1936	角地のビル 典型的なアール・デコのレタリング
Point	Braga通り Sumirasa通りとの交差点西北隅			寄棟屋根、柱型の上下に典型的なアール・デコの造形
兼住宅	Otto Iskandarinata通り131番地?			小規模だが装飾性豊か
兼住宅	Otto Iskandarinata通り152番地			まったく直線的なアール・デコ
兼住宅	Otto Iskandarinata通り			シンプルなアール・デコ
兼住宅	Otto Iskandarinata通り			隅部に独得の造形
ン駅				シンプルなアール・デコ
KIMIA FARMA	バンドン駅北方			隅部にアール・デコの造形
施設	Aceh通り			アール・デコの住宅風
ン工科大学 別棟	Dr. Setia Budi 通り			ややクラシック
大学の教授宿舎	Dr. Setia Budi 通り			ややライト風のアール・デコ

名	所在地	設計・施工	建設年	備考
Villa Isola (現 Universitas Jember Indonesia)	Dr. Setia Budi 通り	設計 Wolff Schoemaker	1933	シューマイケルの代表作
別の住宅	北郊外 (Villa Isola 近く)			典型的なアール・デコ

天津

天津第二電子儀器大樓 (舊裕泰飯店) (解放北路3號)

設計 儀品地產公司



天津

天津百貨公司 (旧新華信託銀行) (解放北路8-10号)

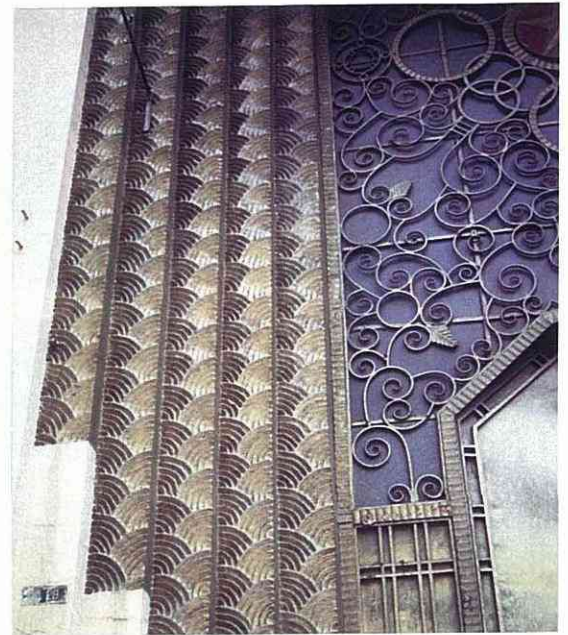
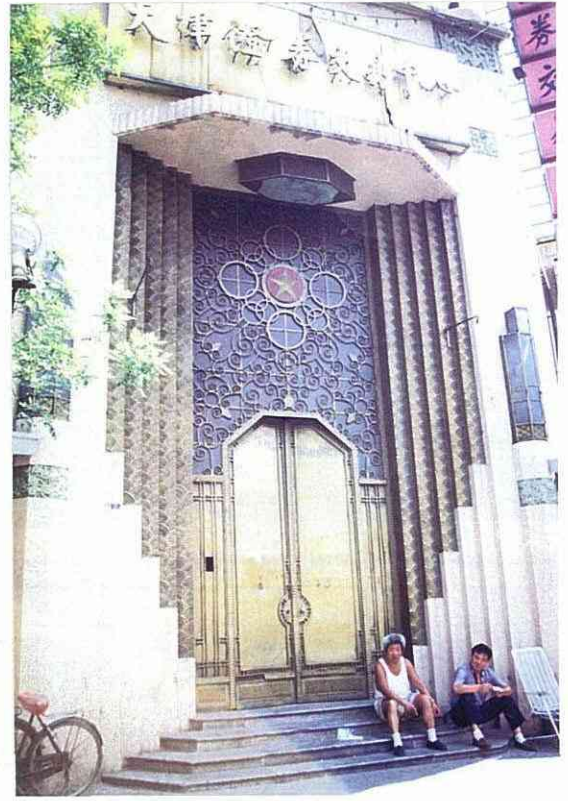
設計 沈理源



天津

天津證券交易中心 (旧フランス・クラブ) (解放北路39号)

設計 Son Sagne?



上海

和平飯店北樓 (旧 Sassoon House) (南京東路20号)

1929年、設計 Palmer&Turner、施工 新仁記營造廠



上海

大光明電影院 Grand Theater (南京西路220号)

1934年、設計 Ladislav Hudec



上海

国泰电影院 Cathay Theater (淮海中路870号)



哈爾濱

國際飯店（旧新ハルビン旅館）（東大直街124号）

1937年、設計 スピリドフ、施工 近藤林業公司



青島

中國銀行青島分行（舊山左銀行）（中山路64-66號）

1934年、設計 劉銓法



青島

中國人民銀行青島分行（河南路13號）

1934年、設計 許守忠、施工 申泰營造廠



青島

山東省服裝進出公司（河南路15號）

1934年、設計 除垚、施工 貨富恒記



台北

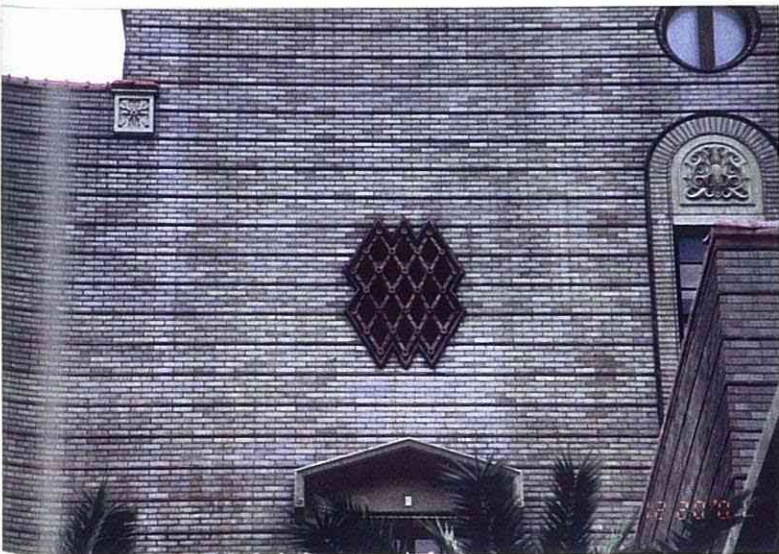
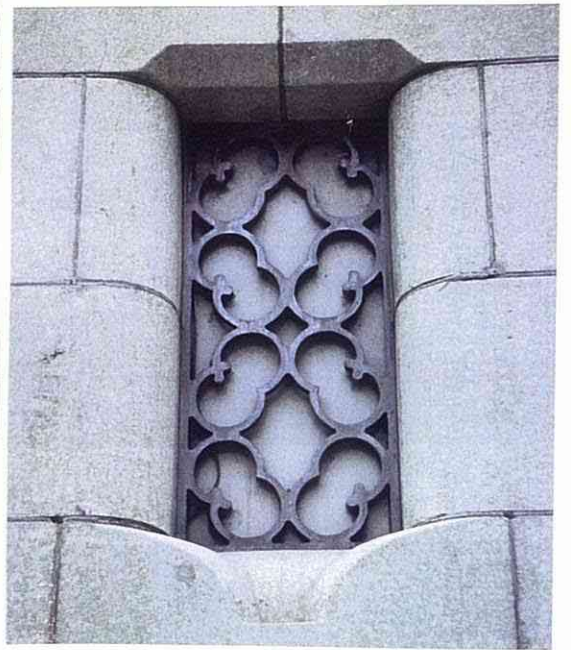
台湾土地銀行・増築部（衡陽路26号の隣）



台北

台北中山堂 (旧台北公会堂) (延平南路98号)

1936年、設計 台湾总督府营繕課 (井出薫)



香港

新華銀行 (舊中國銀行) (Des Voeuxz Rd.)

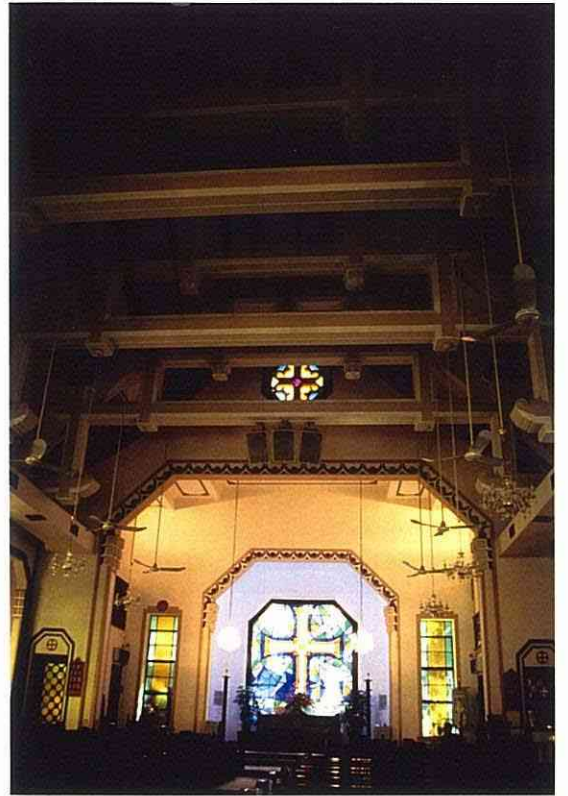
1950年、設計 Palmer&Turner



香港

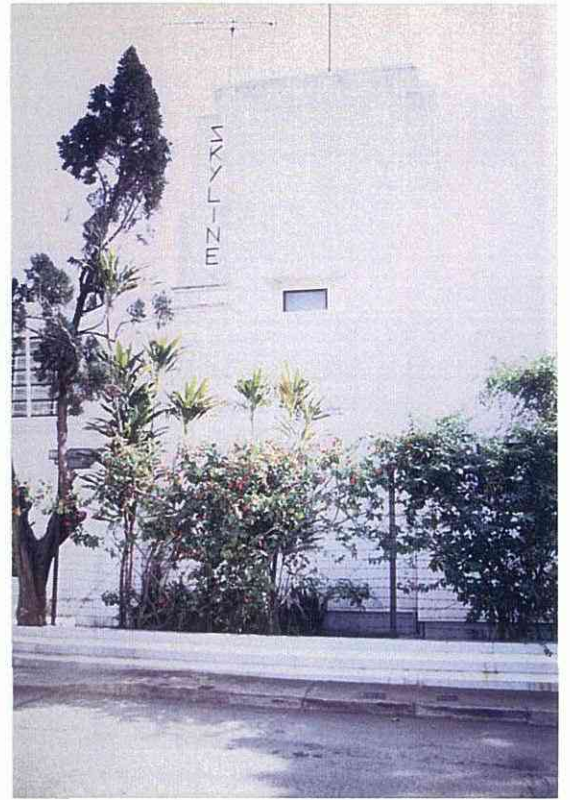
St. Mary's Church (銅鑼灣道と嘉寧徑の交差点)

1937年、設計 I・N・Chau



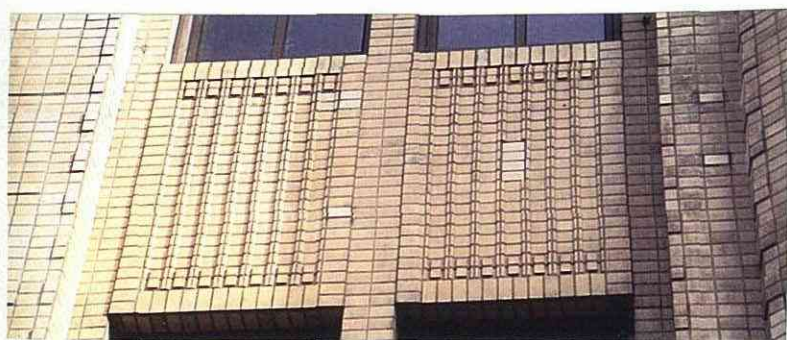
マカオ

住宅 SKYLINE (Estrada de Dr. João Paulino 鮑公馬路)



ソウル

東亜日報ビル (ファサード保存) (世宗路?)

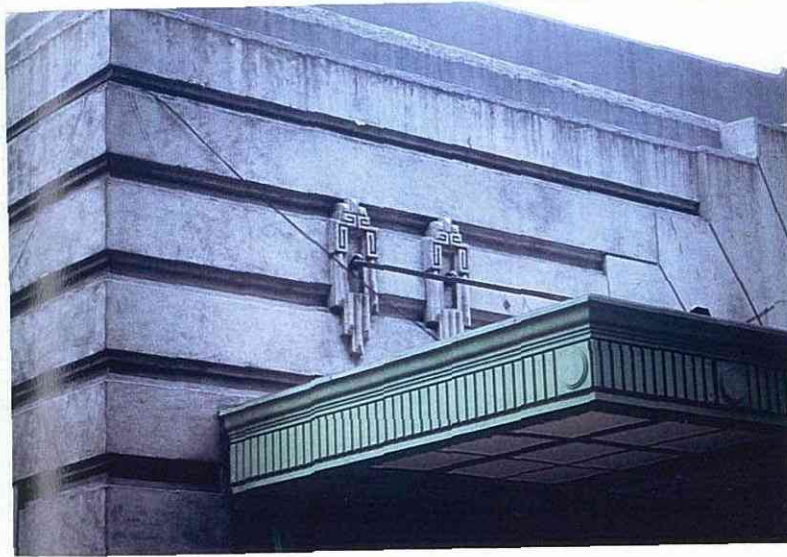
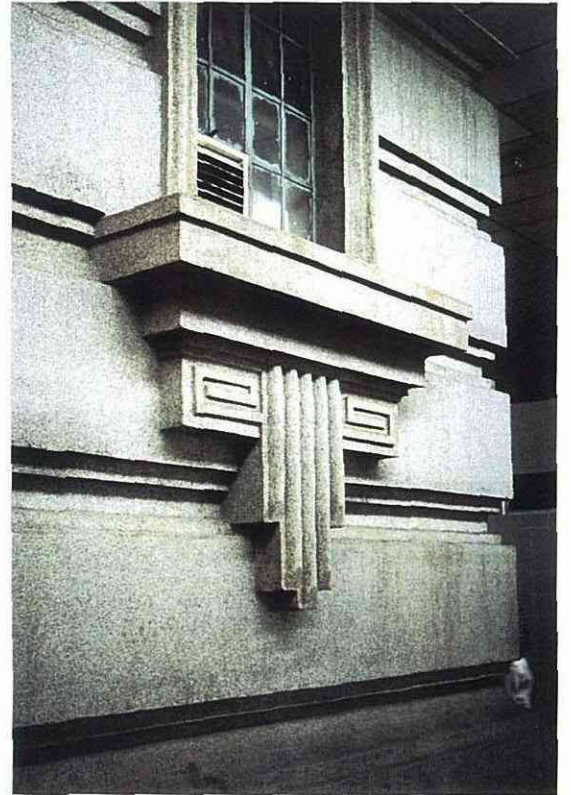


シンガポール

マーライオンの土産物屋 (B1 Fullerton Road)



シンガポール
Clifford Pier
1933年



クアラルンプール

Mahkamah Syariah Wilayah Persekutuan (Jln. Damansara, 駅の南)



クアラルンプール

映画館 ODEON (Jln. Tuanku Abdul Rahman)



クアラルンプール

セントラル・マーケット (Jln. Hang Kasturi)



クアラルンプール

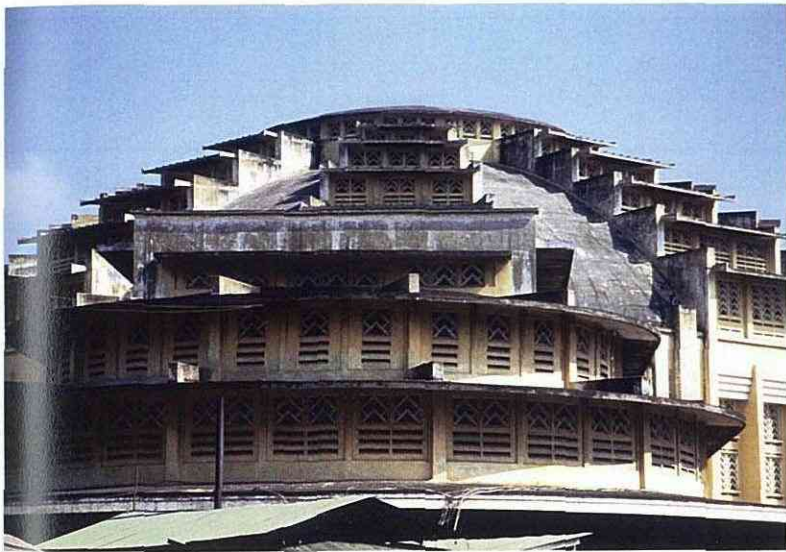
Oriental Building (Jln. Melaka)



ブノンペン

セントラル・マーケット1

1935-37年、設計 Jean Desbois & Louis Chauchon



プノンペン

セントラル・マーケット2

1935-37年、設計 Jean Desbois & Louis Chauchon



ハノイ

Hydrometeorological Service of Vietnam (Quang Trung 通り 5 1 番地)



ハノイ

Chinfon Bank (Quang Trung 通り 5 5 番地)





ハノイ

カナダ大使館？ (Lé Hong Phong 通り 16 番地)



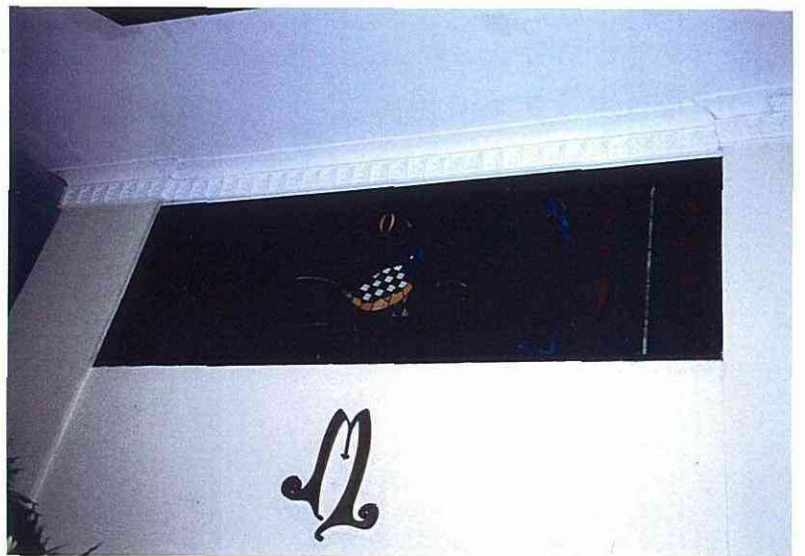
ハノイ

Bo Jhuung Moi 大劇場 (Trang Tien Trang 通り)



ホーチミンシティー

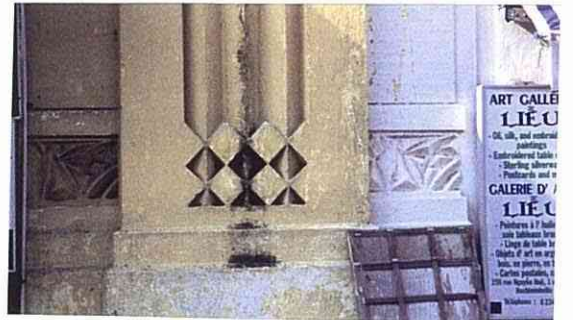
MAXIM'S ビル (Dong Khoi 通り 13-27 番地)



ホーチミンシティー

Chicken Townビル (Dong Khoi通り211-213番地)





ホーチミンシティー

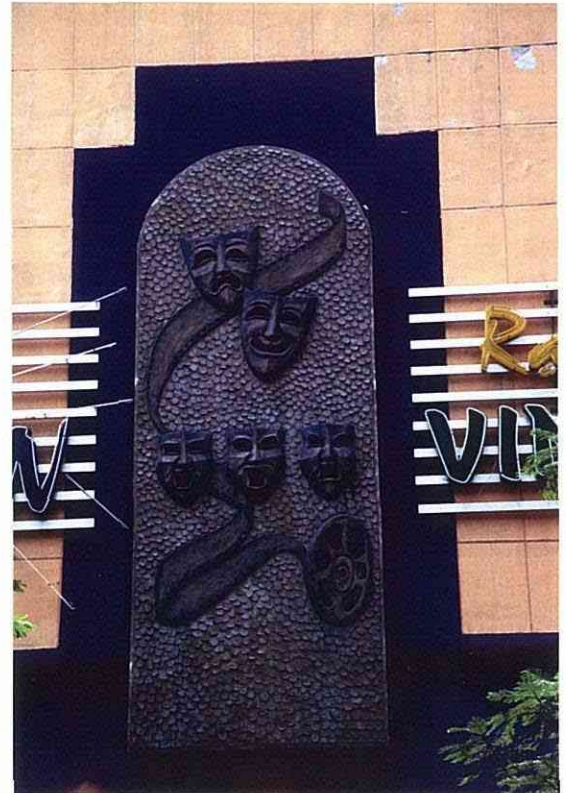
Saigon Tourist ビル (レロイ通りとグエンフエ通りの交差点南西隅)



ホーチミンシティー

映画館 Kich Saigon (Pasteur 通り 57 番地)

1959年?





ジャカルタ

郵便局 POS INDONESIA (コタ地区、ファタヒラ広場北側)



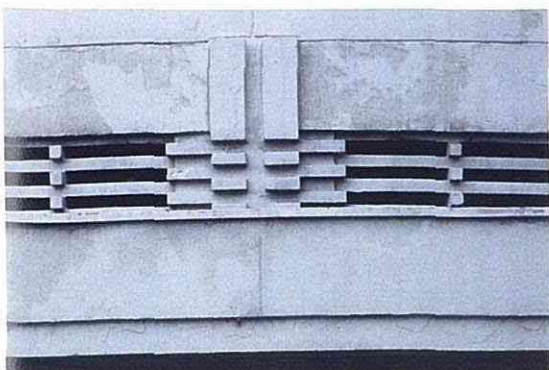
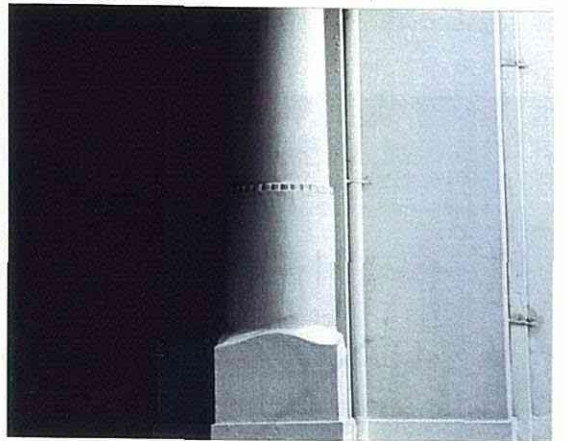
ジャカルタ

インドネシア銀行 (コタ駅前西側)



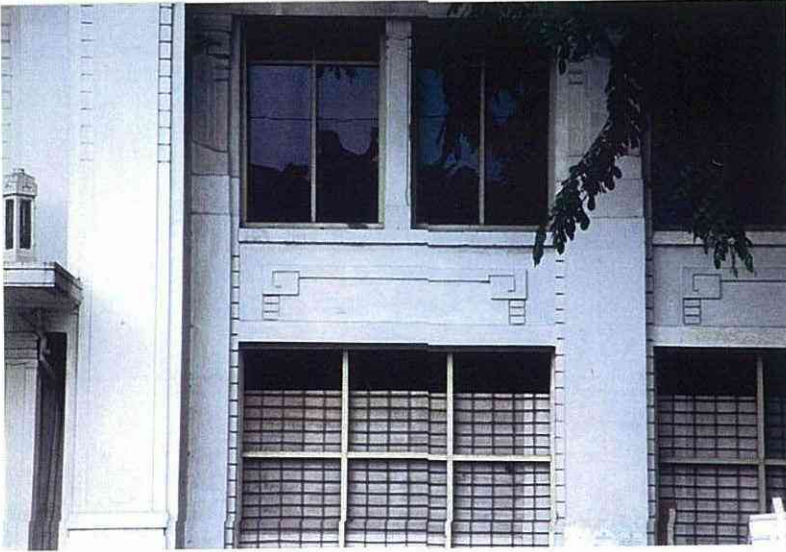
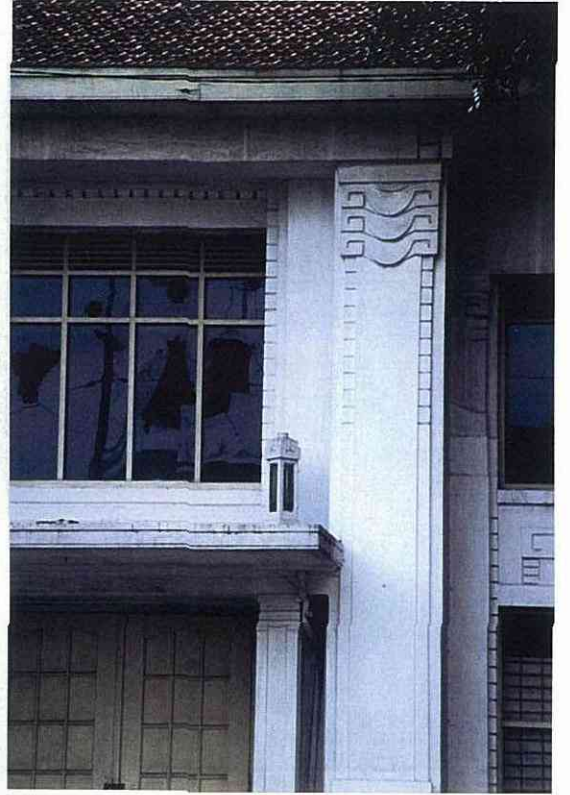
ジャカルタ
コタ駅南側のビル





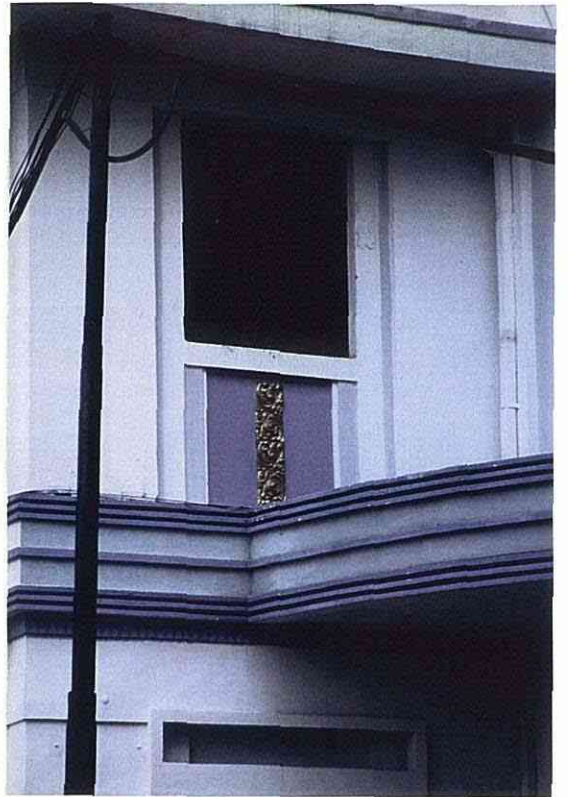
バンドン

Gedung Merdeka 向かいのビル (Asia Afrika 通り)



バンドン

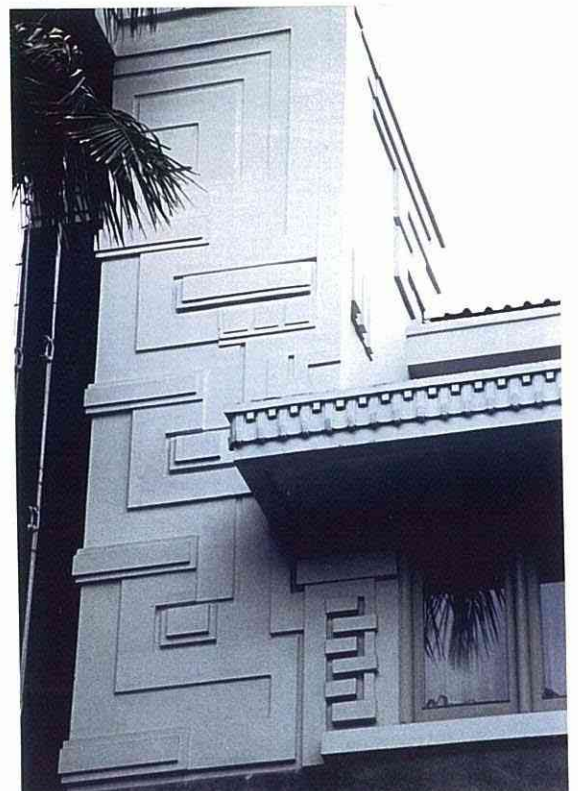
“AACC”ビル (Asia Afrika 通り、Gedung Merdeka の隣)



バンドン

Hotel Preanger (Asia Afrika 通り 81 番地)

1928年、設計 Wolff Schoemaker



バンドン

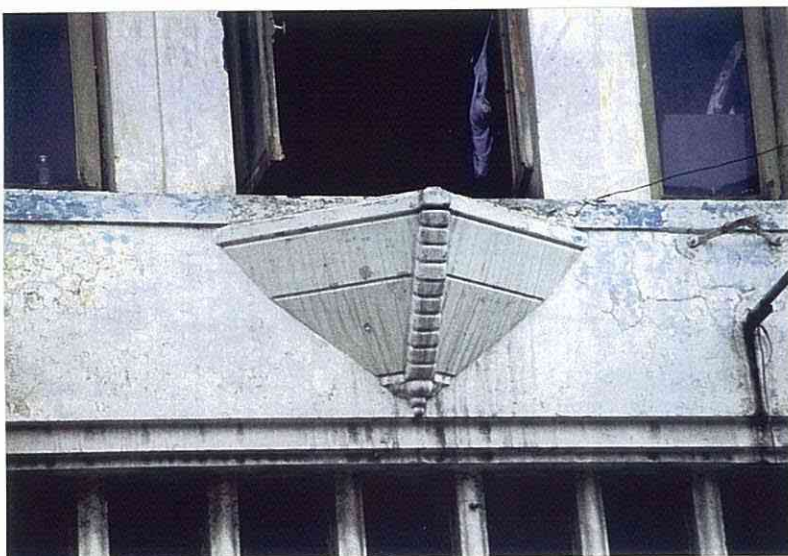
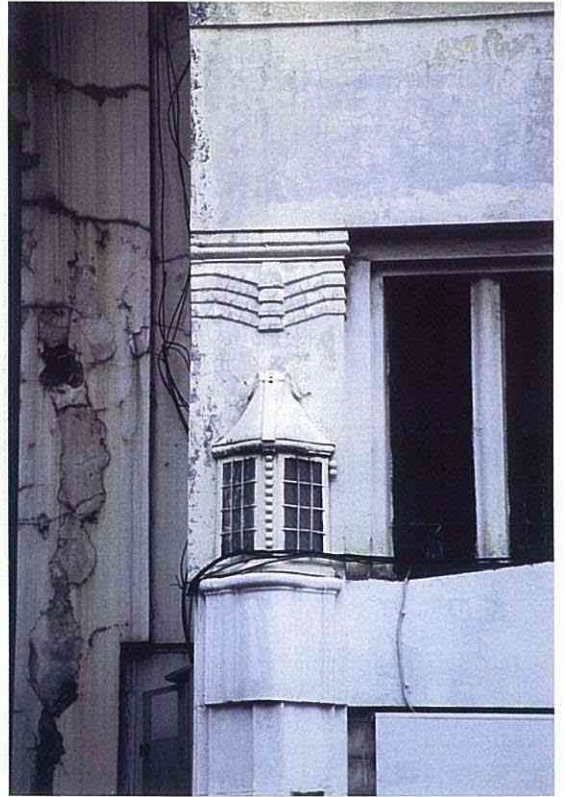
Savoy Homan Hotel (Asia Afrika 通り 112 番地)

1939年、設計 A・F・Aalbers



バンドン

“Canadian Shoes”ビル (Braga 通り 46-62 番地)



バンドン

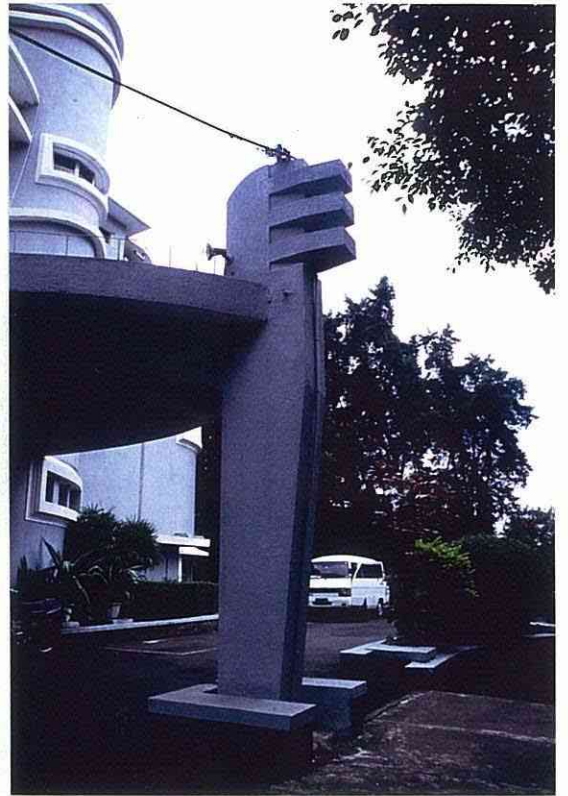
Centre Point (Braga 通り、Sumirasa 通りとの交差点西北隅)



バンドン

Villa Isola (Dr. Setia Budi 通り)

1933年、設計 Wolff Schoemaker



アール・デコ バンドン インドネシア
近代建築

I. アール・デコの建築はアジアの諸都市に散見されるが、その遺構の多寡は、基本的にはその都市の 1920～30 年代における建設活動の活発さ如何に関わっており、旧仏領であった都市に多いわけでは全然ない。その証左の一つとして、インドネシアのバンドンが注目される。バンドンは、1920 年以降に活発な建設活動を見た Braga 通りと Asia Afrika 通りを中心にアール・デコの建物が集中的に存在しており、Braga 通りはさながらアール・デコの伝建地区的な様相を呈している。その中心的な建築家と目されるのがウォルフ・シュマケル (Charles Prosper Wolff Schoemaker, 1882-1949) であるが、この小稿は、シュマケルの簡単な経歴を紹介するとともに、その経歴とアール・デコとの関わりについて若干の考察を施さんとするものである。なお、シュマケルについては、ほぼすべてオランダの美術史家 Jan van Dullemen 氏のご教示によるものであり、準備中というシュマケルのモノグラフのために獲得された貴重な情報を寛大に提供してくださった氏に深く感謝する次第である。

II. インドネシアの近代建築は、主としてオランダの建築家たちによってつくられてきたようであるが、その代表が Henri Maclaine Pont (1884-1971) と Herman Thomas Karsten (1885-1945) の二人である。Pont は今日ではジャカルタの一部となった旧オランダ領東インドの Meester Cornelis で生まれ育ち、高等教育をオランダで受けて生地に戻った建築家であるが、Karsten はオランダ本国生まれである。二人は同時期にデルフト工科大学 Technische Hoogeschool で建築を学んでおり、共に 1909 年に卒業している。Pont が生地に戻ったのが 1911 年、Karsten が当時の東インドに来たのが 1914 年であるから、あるいは Pont が Karsten を誘ったのかもしれない。Pont は今日のバンドン工科大学 I T B のキャンパス (1918-1920 年) をはじめたくさんの建物を設計しているし、Karsten はソロの鉄道駅舎 (1923 年) やジョクジャカルタのソノブドヨ博物館 (1933 年) などを設計している。二人とも洋風とインドネシアの伝統的な意匠との融合に腐心しており、そうした地域性を考慮した設計が評価されている。¹⁾ それに対して、シュマケルは旧オランダ領東インドの生まれ育ちであるにも関わらず、それほど地域の伝統を考慮してはいないように見える。²⁾ その理由の一端を彼の経歴から

探ってみよう。

III. シュマケルは 1882 年に旧オランダ領東インド、ジャワ島の Ambarawa 近郊の Banjubiru で、軍人の家に生まれている。この頃の東インド在住のオランダ人の子弟の例に洩れず、高等教育はオランダで受けているが、軍人の子であった故か、Breda の王立軍学校 KMA で土木を学んでいる。東インドに戻ってからは、この地における最初のフリーアーキテクトの一人となり、同時に 1924 年から 1941 年まで、後に I T B となるバンドンの Technische Hoogeschool で教えている。³⁾ 1949 年にバンドンで亡くなるまで少なくとも 65 件の設計に関与しているという。

作品の大半はバンドンにあるが、代表作がバンドン西北部の丘陵地 Dr. Setia Budi 通りに 1933 年に竣工した Villa Isola である (写真 1)。⁴⁾ これは、イタリア系の富裕な新聞社主 D. W. Berretty の別荘で、Berretty が竣工翌年の 1934 年に飛行機事故で亡くなってからはホテルとして使われ、現在はインドネシア教育大学 Universitas Pendidikan Indonesia の施設として用いられている。プランの形には表現主義やアムステルダム派の影響が指摘できるかもしれないが、外観の造形は典型的なアール・デコといってよい。この別荘を手がける前の 1928 年に、シュマケルはもう一つのアール・デコの大作 Hotel Grand Preanger を Asia Afrika 通りに建てている (写真 2)。これは、F.R.ライトの影響が強く出ているもので、そのディテールほとんどライト調である。この仕事の少し前に、彼は渡米していて、ライトとの接触があったようである。したがって、彼のアール・デコのルーツの一つがライトにあることは間違いないであろう。しかし、Villa Isola はライト調では全然なく、ライト以外の影響も考えられそうである。

その一つの可能性を与えてくれるのが、Albert Frederik Aalbers (1897-1961) という建築家の存在である。Aalbers はロッテルダム生まれで、オランダにおける履歴が長い、生涯のなかほど、1930 年から 1942 年までの 12 年間、バンドンを中心とした東インドで仕事をし、非常に生産的な時代を送っている。世代としては Pont や Karsten やシュマケルよりも十数年若く、アール・デコが盛んになり始めた時期に教育を受けている。代表作が 1938 年竣工の、

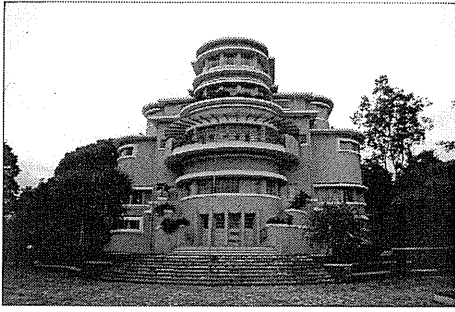


写真1 Villa Isola



写真2 Hotel Grand Preanger

Asia Afrika 通りの先述の Hotel Grand Preanger の向かいにある Hotel Savoy Homan。⁵⁾ 彼の実作品はほとんど Villa Isola よりも後のものであるが、先述のように 1930 年には当地に来ており、当時のオランダひいてはヨーロッパの最新の造形をシュマケルに伝えたのではないと思われる。Aalbers の作風はいわゆるストリームライン・アール・デコに相当するもので、水平線が強調されたものであるが、その水平性の強調は Villa Isola にも見られるからである。⁶⁾

シュマケルは正統的に建築を学んでおらず、おそらくそれが故に様式のもつ意味とか、様式の地域・風土との関係といった問題に頭を悩ませなくてもよかったのであろう。彼は非常に実践的な建築家であり、⁷⁾ そうした実践性とアール・デコとはよくあつたに違いない。なぜなら、アール・デコもまた、鉄筋コンクリートの表層の造形を主眼としたさしたる主張をもたないプラクティカルなスタイルだったからである。

注

- 1) Pont と Karsten の業績については、Helen Jessup "Dutch Architectural visions of the Indonesian tradition" in 《Muqarnas》 vol.3 (1985), pp.138-161 を参照。論文の趣旨のせいであるが、この論文はシュマケルについてはまったく言及がない。ついでながら、こうした植民地時代の遺産を "Colonial heritage" ではなく "mutual heritage" と呼んで、双方向的な視線の下にその価値を考えようとするむきがあるが、そうしたスタンスからしてもこの二人の業績が高く評価されるのであろう。なお Braga 通りのアール・デコの建築家としては、後述の弟を含めたシュマケル兄弟のほかにも R. A. de Waal, Benink, Brinkman, Gmelig Meyling それに 3 人の建築家チーム Bel-Kok & Piso が知られている。
- 2) シュマケルの業績をつぶさに調べたわけではないので、断言ははばかれる。しかし、たとえば "List of the UNESCO Asia-Pacific Heritage 2000 Awards Project Entries"

にも掲載されている 1925 年竣工の彼のもとの自邸も、庇の深い勾配屋根を備えているけれども、それはアムステルダム派の独立住宅作品にも見られるもので、インドネシア的というよりもむしろアムステルダム派的である。

3) ついでながら Karsten もこの学校で教えており、インドネシ

ア共和国初代大統領となるスカルノは二人の教え子である。シュマケルは生涯スカルノと親交を結んだという。また、シュマケルには同じ建築家の弟 Richard Schoemaker(1886-1942)がいる。弟は Breda と Delft の両方で学び、開校年の 1921 年から 1924 までやはりこの学校で教えている。そして 1924 年から亡くなるまでデルフト工科大学で教えていたという。おそらく弟のほうがきちんと建築を学んでいたが故に、先にこの学校で教えることになり、弟がオランダに戻った後に交代する形でシュマケルがこの学校と関わることになったのであろう。

4) この建物は《World Architecture, a critical mosaic 1900-2000, vol.10 Southeast Asia and Oceania》Springer-Verlag, Wien NewYork, 1999, pp.38-41 にとりあげられている。なお、この建物の名前 Isola は「島」を意味するイタリア語からとられたものと思われる。

5) そのほかにも、いずれもバンドンにある Bank Pembangunan Daerah、Three Colour Villa、Dago Thee Villa などの作品があるという。

6) ついでながら、1955 年にバンドンで開催されたアジア・アフリカ会議の会場となった建物（当初は Sociëteit Concordia という名であったが、この会議以後 Gedung Merdeka と変わった）は、シュマケルが 1924 年に既存の建物に大改造を加え、さらに 1938 年に Aalbers が増築したものである。

7) 彼は画家・彫刻家でもあり、インドネシアの建築を主とした伝統美術に関する著書（《Aesthetiek en oorsprong der Hindoe-kunst op Java》G. C. T. van Dorp, 1924）をもつ美術史家でもあるから、軍人的実践性におさまってしまうわけではもちろんない。

*本稿は平成 12 年度から平成 14 年度まで科学研究費補助金を得て行った「東アジアと東南アジアのアール・デコの建築に関する研究」の成果の報告の一部である。